

# 第一章活用事例

小学校三・四年生版「心しなやかに」「人にほめること」

p.10

## 中心資料

「わたしたちの道徳」小学校三・四年  
平成二十六年三月 文部科学省 「うれしく思えた日から」

【主題名】 自分よさを のびす

第三学年及び第四学年 1-⑤

「自分の特徴に気づき、よい所を伸ばす。」

【ねらい】 自分のよいところを伸ばし苦手なことにも努力して、自分らしさを発揮していきつづける態度を育てる。

《ねらいとつなげる道徳的価値》「いっしょ」三・四年生の時期の児童は、自分の短所ばかりを気にしたり、友達の良いところを認められなかったりすることがあります。客観的に自己を見つめて自分の特徴を知り、長所をより一層伸ばしていきつづけることにも、短所を努力によって改善していきつづける姿勢を身に付けさせることが必要です。個性を尊重し前向きに生活しようとする意欲を育むことが大切です。

## 板書例

うれしく思えた日から

いぜん「ぼく」は、自分をどのように思っていたでしょうか。

・なんにもいいところがない。  
・めだたないなあ。  
・「ふつう」だ。

暗い表情のぼくの絵

ボールが遠くに飛んだとき、「ぼく」はどのような気持ちだったでしょうか。

○ みんながみとめてくれた。うれしい。  
○ ぼくにも いいところがあったんだ。

いいかた  
してるね

「ぼく」は、野球の練習で、  
どのようなときにおまじないの言葉を  
つぶやいていたでしょうか。

○ れんしゅうがつらいとき、おまじないのことがば  
がなばれた。

○ 自分はだめだと思ったとき、このことがばな  
れた。

○ このことばで、「みんながみとめてくれたかたの強  
さだ。ここであきらめてはいけない。」と思えた。

いいところがたくさん伸びてきた「ぼく」は、  
どのように変わったでしょうか。

・がてな  
ことも、よ  
くなった。  
・みんないいと  
ころを生か  
している。ぼ  
くもいかし  
ていこう。

明るい表情のぼく  
の絵

「人にはできる  
こともあれば…」  
の言葉

《評価》 自分よしいところを伸ばし苦手なことにも努力して、自分らしさを発揮していきつづけるという態度を育むことができたか。

## 導入



「自分のよいところや、いやなところについて、考えたことはありますか。」

○ これまでの体験を思い出させて道徳的価値への導入をしましょう。  
○ 「わたしたちの道徳」 p.46 「自分の良い所をのびして」や「心しなやかに」 p.100 「自分のよいところをのびそう」などを読ませてみましょう。



「以前の『ぼく』は、自分をどのように思っていたでしょうか。」

○ 教師が「うれしく思えた日から」を読み聞かせましょう。  
○ 「いいところなんてひとつもない。」と、自信をもてずにいる「ぼく」の気持ちを想像させましょう。



「ボールが遠くに飛んだとき、『ぼく』はどのような気持ちだったでしょうか。」

○ 友達や先生から認められたことで、自分のよさに気付いたときの「ぼく」の気持ちを想像させましょう。



「『ぼく』は、野球の練習で、どのようなときにおまじないの言葉をつぶやいていたでしょうか。」

○ おまじないの言葉をつぶやいているときの、「ぼく」の気持ちにも目を向けさせましょう。



「いいところがたくさん伸びてきた『ぼく』は、どのように変わったでしょうか。」

○ 自分のよさに気づき、それを伸ばそうとがんばっていきうちに、苦手なことでも克服できたり、大きな目標の達成に向けて積極的になっていたりする「ぼく」の変化に気付かせましょう。

《評価》 「ぼく」が自分らしさに気づき、これからも、自分らしさを生かしていこうとしていることについて考えることができたか。



「あなたは、自分らしく毎日がやれていると感じていますか。また、自分のよいところはどのようなところだと思えますか。」

○ 導入で出された体験などをここでもう一度想起させて、自分を振り返らせましょう。

## 終末

○ 自分を振り返らせるために「心しなやかに」 p.10 「人にはできることもあれば…」を読み、輝くためには影の部分も大事なことであるという意味についても、考えさせましょう。

○ 友達同士でお互いのよいところを紹介させたり、行事などでがんばる学級の子供たちの姿を写真で見せたりしてもよいでしょう。

## 展開